

下の新聞切り抜きは、3月4日の信濃毎日新聞からであるが、この種の記事は社会面に毎日ほど載っている。最初の自動車事故はどこでもあることだが、あとのスキー・雪下ろし・山の記事は他県ではまずないだろう。ここにはないが、もう一つよく載るのが除雪機による事故である。

今年はスキー場での衝突事故が目立っている。県内では死亡まで至らないが、かなり重傷という記事が多い（先日福井勝山他で木に衝突してゲレンデスキーヤーが二人亡くなっている）。ひところバックカントリー遭難が騒がれたが、最近では珍しくなくなったのか、注意喚起が功を奏しているのか、顕著な記事は見る事がなかった。個人的に気になったのは1月末の妙高アライリゾートでの滋賀県の医師父子（68・40歳）遭難である。アライリゾートはバブル期にホテルを含め巨大投資をして賑わったようだが、その後スキー客が減少し閉鎖していた。今シーズン、14年ぶりに関連企業のロッテが再開発して営業を始めた。

アライリゾートは柵池スキー場とほぼ同面積だが、かなりの面積をオフピステ（非圧雪）にしている。従って、吹雪いたりしたらゲレンデ内外の区別が付きにくいのかもかもしれない。スキーヤーのほとんどは初めて滑るわけで、荒天の場合は相当気をつけなければならないということだろう。私は何年も前に八甲田を滑ったことがあるが、ゲレンデとはいえ、オフピステに近く、吹雪の中を自然に近い環境で大変な経験をしたことがあるが、初めて広大なスキー場に入る場合は、かなり慎重さが求められる。これもずいぶん以前のことだが、八方スキー場を初めて滑った知人が、下山を間違えて迷った末、当時携帯電話も持っていなかったので警察のお世話になったこともあった。

アライリゾートでの父子が遭難したとき、最初は携帯電話が繋がりに、県警は「穴を掘るように」と指示したようだったが、ゲレンデスキーで何の装備もない中で、どう一夜を明かすことができるのだろうか（バックカントリーを想定していれば、シャベル・ビーコン・ツェルト・GPSは持って行く）。結局二人は凍死した。

2月末に、白馬村の旧ハイランドスキー場跡で雪洞づくり訓練をした。雪はたっぷりあるという状況ではなかったが、縦穴・横穴・スノーマウントや、ツェルト

を使った訓練もやった。このときスキー板を使って穴を掘ってみたがとても空間をつくることはできなかった。せめてツェルトを持っていれば、木の根っこを手で掘って穴をつくりツェルトを被れば一夜を明かすことができただろう。ずいぶん以前に私もGW、前穂直下でビバークしたことがあるが、ツェルトを被り身体を震わせながら身体を背中合わせになって過ごした。

雪洞づくりも、私が大町労山に来てから初めてで、しかも私がリーダーだ。雪洞をつくるのが初めてという会員も多い。雪に限らず、危険はどこにでも潜んでいる。

長野県では、これから春山も天候次第で事故があり得るし、山菜採りによる滑落も毎年おこっている（秋にはキノコ採りによる道迷い遭難）。

▼長野の男性、車とぶつかり死亡
 3日午後10時20分ごろ、長野市上松4の市道で、歩いて道路を横断していた同市浅川押田、無職押田明さん(79)に、同市上野、会社員横沢孝さん(50)の軽乗用車がぶつかった。押田さんは頭の骨を折るなどし、搬送先の市内の病院で4日前0時に死亡が確認された。長野中央署によると、現場に横断歩道はなかった。

▼白馬のスキー場で衝突、男女2人けが
 3日午後9時20分ごろ、北安曇郡白馬村の白馬五竜スキー場で、スキーをしていたオーストラリア国籍の会社員タニル・クリストファー・マクリさん(38)と、スノーボード中の京都市の看護師岡久美子さん(24)が衝突した。大町署によると、マクリさんは右膝と右ひざ、岡さんは右太ももなどをそれぞれ骨折したもよう。両署が原因を調べている。

▼松本で雪下ろし中に転落しけが
 4日午前9時20分ごろ、松本市安曇のつるや旅館で、墨根の雪下ろしをしていた同旅館経営の村田政人さん(31)が松本市波田川が約4メートルに転落した。村田さんは全身を強く打ち、右手首骨折や肝臓傷で重傷のもよう。松本署によると、命綱やヘルメットは着用していなかった。

▼白馬乗鞍岳で上田の男性行方不明
 大町署は4日、北アルプス白馬乗鞍岳へ山スキーに出かけたとみられる上田市中丸子、会社員山岸明広さん(58)が行方不明になっていると発表した。山岸さんは3日前午前9時半ごろに自宅を出発。夜になっても帰宅しなかったため、家族が4日未明に通報した。同署によると、山岸さんは3日午後2時ごろに下山する予定だった。山岸さんの車は北安曇郡小谷村の梅池高原スキー場近くにあって、5日朝から気警ヘリコプターなどで捜索する予定。

▼中ア宝剣岳で滑落した男性発見
 4日正午ごろ、中央アルプス宝剣岳(2931メートル)の山頂付近から約70メートル下方の斜面で、心肺停止状態で倒れている男性を捜索山岳遭難救助隊員が発見した。木曽署は3日に滑落した以外の40代の男性とみている。捜索のため気警ヘリコプターが飛ばず、5日以降、天候の回復を待つて収容する。

■縦穴式雪洞

